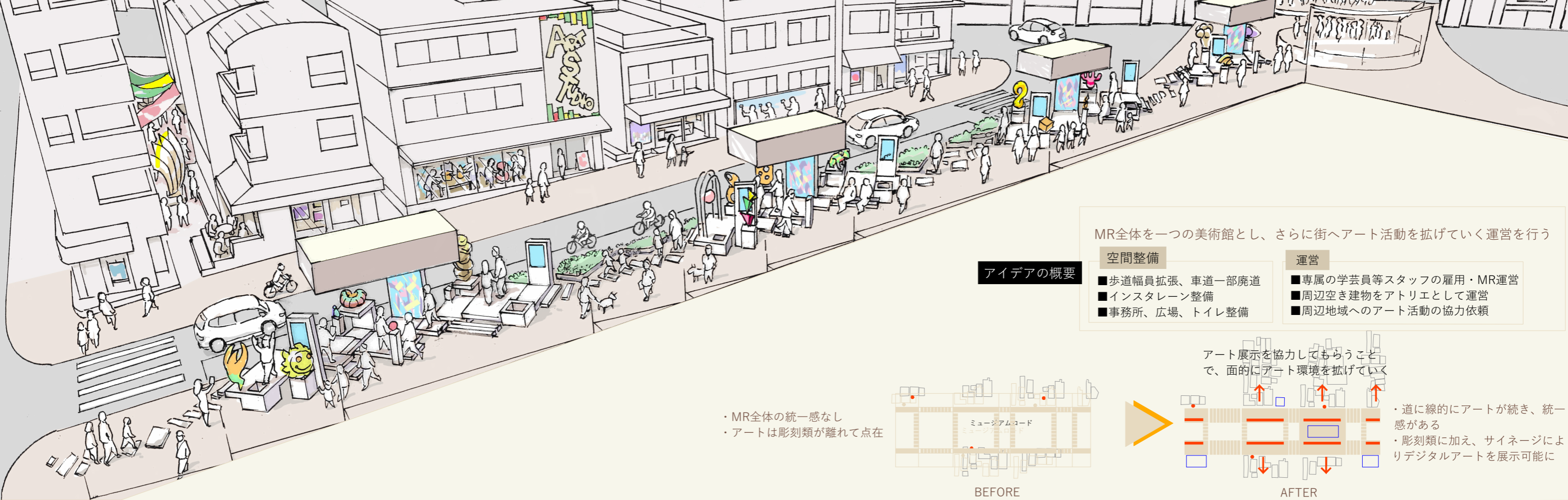


1.2kmのたんだん美術館

ミュージアムロードにとって欠かせないものは文化・芸術（以下、アート）です。MRは、よりアートが地域に根付いて育っていく空間。MRは全ての人々が利用する"道路"であるという特性と、よりアートが地域に根付いていくためには、ミュージアムロードは、地域の人々の日常に溶け込みつつ、感性を刺激する様々なアート（創造的活動）と触れ合える場を設けた都市の基盤（インフラ）となることで、段々と街路空間そのものがミュージアムとして熟成されていきながら、20年後にはアートがMRとの周辺地域にとって欠かすことができない、まるでインフラのようになり、地域にとって日常であり必要不可欠なものとしてだんだん根付いていく未来を提案します。



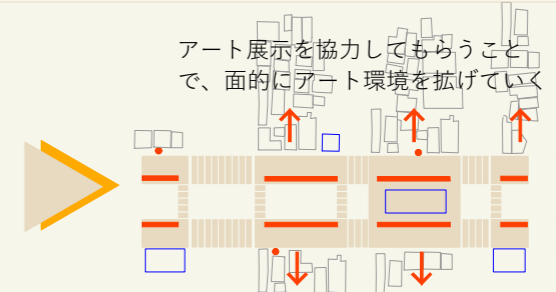
- MR全体を一つの美術館とし、さらに街へアート活動を広げていく運営を行う
- | 空間整備  | 運営   |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■歩道幅員拡張、車道一部廃道</li> <li>■インスタレーション整備</li> <li>■事務所、広場、トイレ整備</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■専属の学芸員等スタッフの雇用・MR運営</li> <li>■周辺空き建物をアトリエとして運営</li> <li>■周辺地域へのアート活動の協力依頼</li> </ul> |

アイデアの概要

- ・MR全体の統一感なし
- ・アートは彫刻類が離れて点在



BEFORE



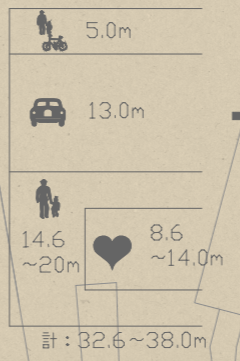
AFTER

アート展示を協力してもらうことで、面的にアート環境を広げていく

- ・道に線的にアートが続き、統一感がある
- ・彫刻類に加え、サイネージによりデジタルアートを展示可能に



海岸沿いの歩道（ハイパーウォーク）まで延長することで、そこから人々を引き込む。



## アイデアの詳細

MRをひとつながりの美術館にするために、以下のことを行います。

### ①道路空間整備

MRの歩道空間にアート空間を設けるため、歩行空間を拡張します。具体的には車道の幅員減少と、歩道拡幅を行います。また、2号線沿い高架下や山手幹線沿い高架線下を廃道にすることで、より広い歩行可能空間を確保します。

### ②広場整備

岩屋駅前や廃道にした高架下の空間を、イベントなどができる広場とし、MRをつないでいく点とします。

### ③インスタレーン整備

広場（点）をつなぐ線として、遊歩道×展示空間となるインスタレーン（右記にて詳細は説明）を整備し、美術館として点と線を完成させます。

### ④運営整備

MRを美術館として、運営していくために、最も重要なのは運営体制です。以下に、運営についての提案を整理します。

#### ■専属の学芸員等スタッフの雇用・MR運営

ミュージアムロードは全てが半屋外の展示空間であり、一般的な室内がメインの美術館とは性質異なります。この空間を活かすには専属の学芸員、広報、ウェブサイト管理人、清掃車を雇用し、日々様々な企画・運営をすることで、MRの美術館としてのクオリティを担保する必要があります。

#### ■周辺空き建物をアトリエとして運営

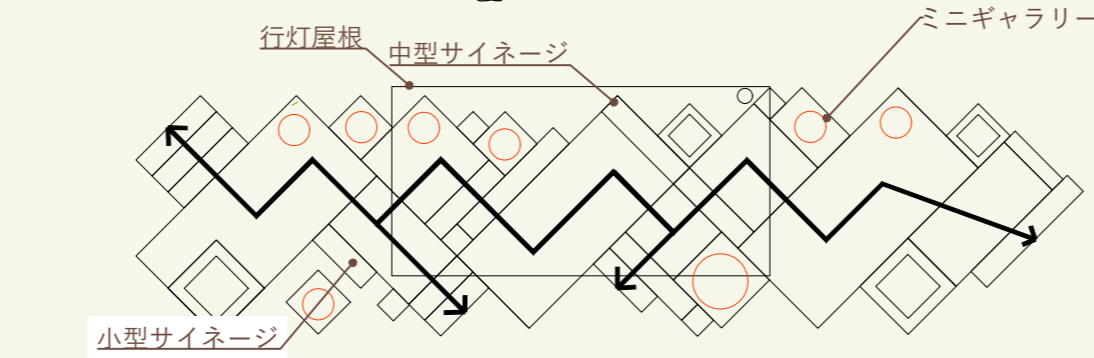
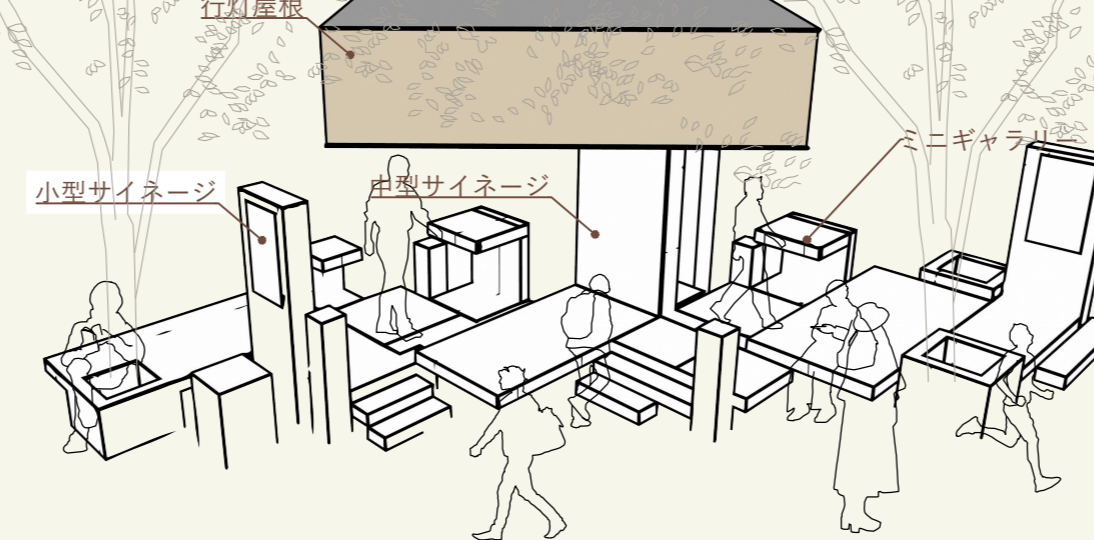
周辺の空き建物をMR運営がアトリエとして借り上げ、イベントやワークショップ、アーティスト・イン・レジデンス等を企画・運営します。市民が鑑賞だけでなく作る工程に関われることでよりアートが生活に根付きます。

#### ■周辺地域へのアート活動の協力依頼

3枚目で「まちなかギャラリー」として後述。

#### ■インスタレーン（インスタレーション）+「レーン（小径）」を足した造語

ミュージアムロードが浜手と山手をつなぐ緩やかな坂道を形成していることを活かして、高さを段々と変化させながら続く、平面矩形の盤面の重なりで遊歩道を形成します。この遊歩道はあくまでキャンバスであって舞台装置であり、その盤上や脇の植込みなどを活用して様々なアートコンテンツを設置・展開することによって、アート単体を魅せる道とするのではなく、道自体も魅力を持ち、両方の魅力が掛け合わさることによって生まれる新しい魅力も持った空間にします。



#### ■段段（遊歩道×ギャラリー×ベンチ×植栽プランター）

遊歩道であり、段段になったギャラリースペースである。物理的なアート（彫刻、インスタレーション等）を展示する。主な通行動線の真ん中に作品を設置する場合も想定し、例え一部が通れなくても、昇降の階段を細かく設置することで一度レーンを降りて、作品を通り過ぎてからすぐに上れるようにする。段段の高さをGLから+400~+600程度の位置に床面が来るように設定することで、段の端がベンチのように座れるようにする。

#### ■行灯屋根

天井高2400ある屋根は、MR全体に配置し、雨の時や日差しが強い時についつい寄りたくさせる仕掛け。高さ1200ある行灯は、周囲が曇りガラスで覆われており、内側からLEDライトでライトアップする。（通常時）電球色の光で優しく人・道・植栽を照らす（イベント時やアートとの組み合わせ）様々な色で光ってMRを演出する。

#### ■中型サイネージ

H2400W1350(16:9)サイズのサイネージを行灯屋根とセットで設けることで、サイネージを雨や日差しから守りつつ、デジタルアート（写真、絵画等のデジタル画像、動画）鑑賞やそれを背景とした写真撮影がしやすい環境とする。

#### ■ミニギャラリー

車道側への落下防止柵を兼ねたアート展示台。動線の邪魔にならないので、作品を長期にわたって展示・蓄積していくことができる。

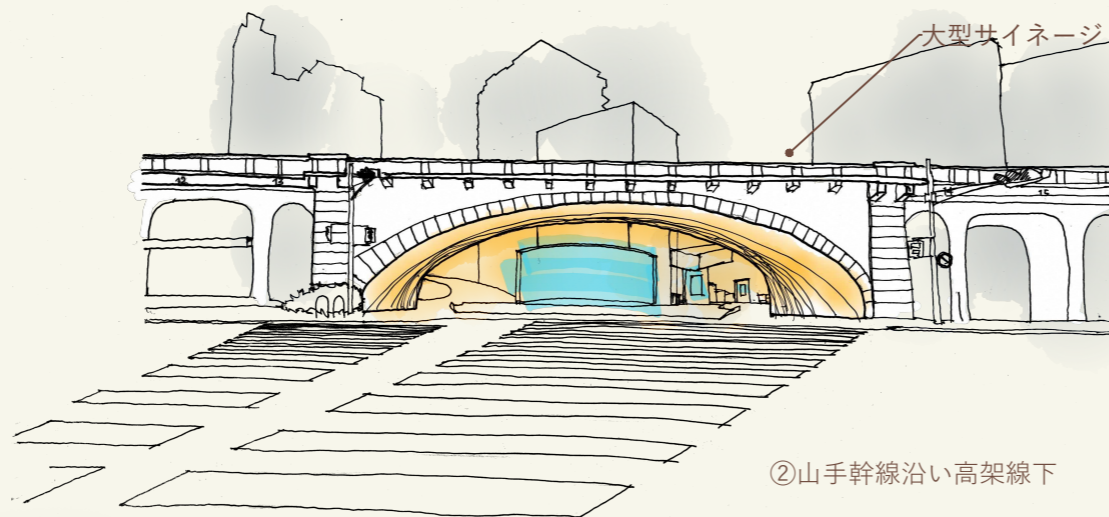
#### ■設置時における配慮

- ・既存の街路樹は残し、樹木を避けたり取り込んだかたちでインスタレーンの形状を検討する。
- ・インスタレーンの段を立ち上げる箇所は、車道から車両が歩道側に入れなくなるので、日常的に車が出入りする箇所は段を立ち上げず、舗装のみの設置とする。
- ・建築限界に留意して検討する。例えば行灯屋根の下は、道路構造令で定められている最低高さの2.5mを超えるようにする。
- ・行灯屋根の上端の立ち上がりによって歩道沿いの店舗の看板の見通しが悪くなるので、別途立て看板を設ける等の方策を検討したうえで協議が必要である。

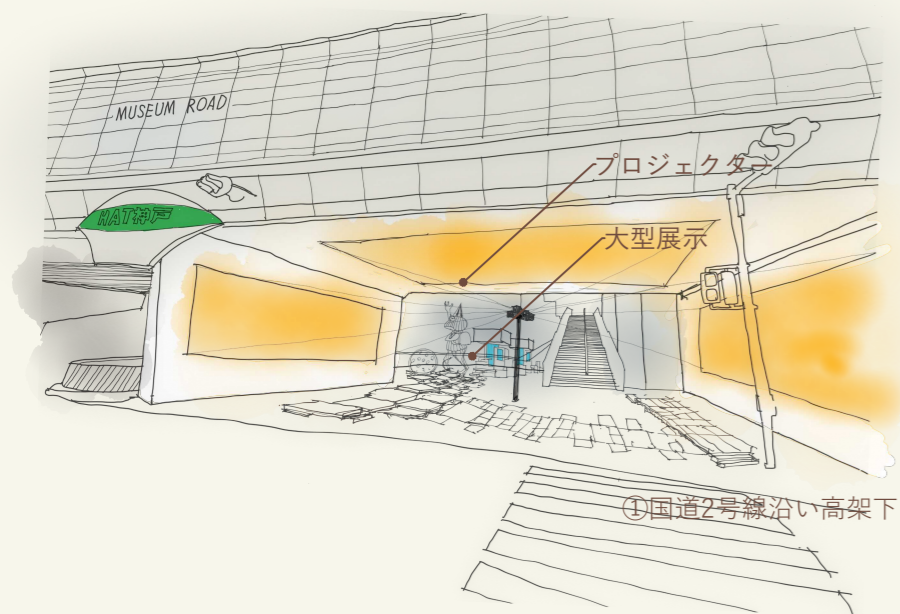


■広場整備

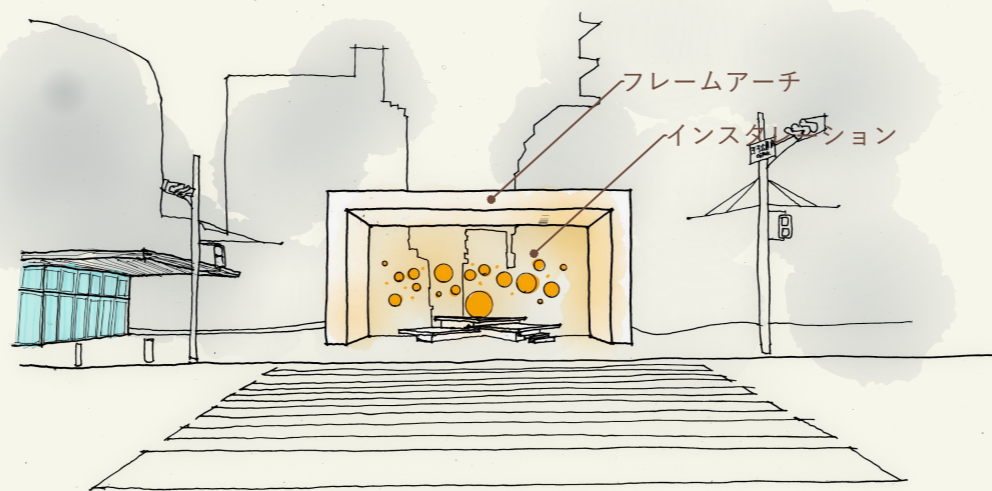
屋外空間の広さを利用したイベントスペースを設け、モノだけではなくコトとしてのアートも体験できる設えとします。イベントスペースは、イベントがおこなれていないときの展示として、大型サイネージを設け、そこでしかできないインスタレーション等を展開します。また、大型サイネージは周囲の建築物、景色と重なり、この街にでしか見られないアートな日常風景になっていきます。



②山手幹線沿い高架線下



①国道2号線沿い高架下



③王子動物園前

ミュージアムロードでの企画アイデア

■神戸クリエイター展 アートでギブアンドテイク

地元や近隣のクリエイターの作品を展示する。展示の料金は貰わず、代わりにアートワークショップの講師やイベント運営に参加してもらう等、アートに関する能力で還元してもらう。

■ながーい企画展 各館の展示方法の特徴を活かす！

県立美術館、ミュージアムロード、原田の森ギャラリーの3館で同一テーマの企画展を実施。鑑賞するには、3館を巡る必要がある。

■#展 全国のみんが参加可能！

ハッシュタグを付けて投稿された画像・動画をアーカイブし、同じハッシュタグごとにサイネージで展示する。

ハッシュタグごとに分類・アーカイブされ、随時更新されていく。

例)「#青空展」、「#神戸展」、県立美術館の展示に関連したテーマを選定 等

■メンテナンス前に好きにペイントしちゃえ ス〇ラタウンが実現！？

インスタレーションは屋外環境に晒されるインスタレーションはいずれ塗装のメンテナンスが必要になる。メンテナンス工事で塗装する前に、インスタレーションをみんなが好きに塗るイベントを行う。

例：各チームが互いに早くペイントで塗りつぶすかを競うレースの開催。  
壁画・床画アートとして絵をかいて一定期間展示。

■まちなかギャラリー MRから街へ面的にアート活動を展開！

MR周辺の店舗や民家に協力を得て、敷地の一角や窓際、店内等の一部スペースに市民やアーティストが作成したアートを展示。キュレーターが設置期間や撤去に関するルールを整備することで、無法な物品放置などを防止する。

■情報発信 アート以外にもサイネージを柔軟に活用

- ・周辺美術館、動物園等の企画情報等を表示
- ・有事の際に市からのメッセージを表示

